・じゃらん宿泊旅行調査2022

・世界、日本の旅に対するトレンド

株式会社リクルート 杉岡 亮汰

じやらん宿泊旅行調査より兵庫県の観光の実態

「じゃらん宿泊旅行調査」とは…

日本全国で行われている観光宿泊旅行の動向を調べるための、 18回目を迎える経年調査です。

- ① 観光宿泊旅行(出張・帰省・修学旅行などは除く宿泊旅行)に特化
- ② 2021年度(2021年4月~2022年3月)の動向の<u>最新版</u>

調査方法

インターネット調査

調査対象

• 全国20~79歳の男女(株式会社マクロミルの調査モニター)

調査時期

• 2022年4月1日(金)~21日(木)

調査対象

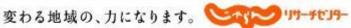
2021年4月~2022年3月末までの国内宿泊旅行(出張・帰省・修学旅行などを除く)

集計対象数

• 1万4,123名(旅行件数ベース2万5,840件)

※集計・分析手法について

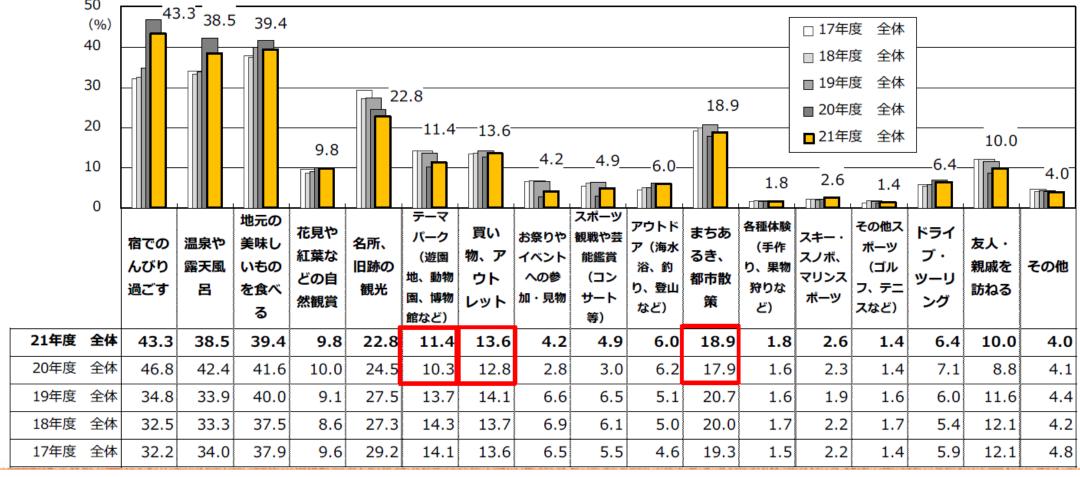
初めに令和3年10月1日現在人口推計(総務省統計局発表)および1次調査結果を用いて、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析に当 たり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県・性年代別構成比に基づいてウエイトバックを行い、構成比のずれを補正している。



じゃらん宿泊旅行調査_宿泊旅行の目的 (全国データ)

「宿でのんびり過ごす」「地元の美味しいものを食べる」「温泉や露天風呂」がトップ3だが、数値は下 がった。20年度から回復したのは「テーマパーク」「まちあるき、都市散策」「買い物、アウトレット」な

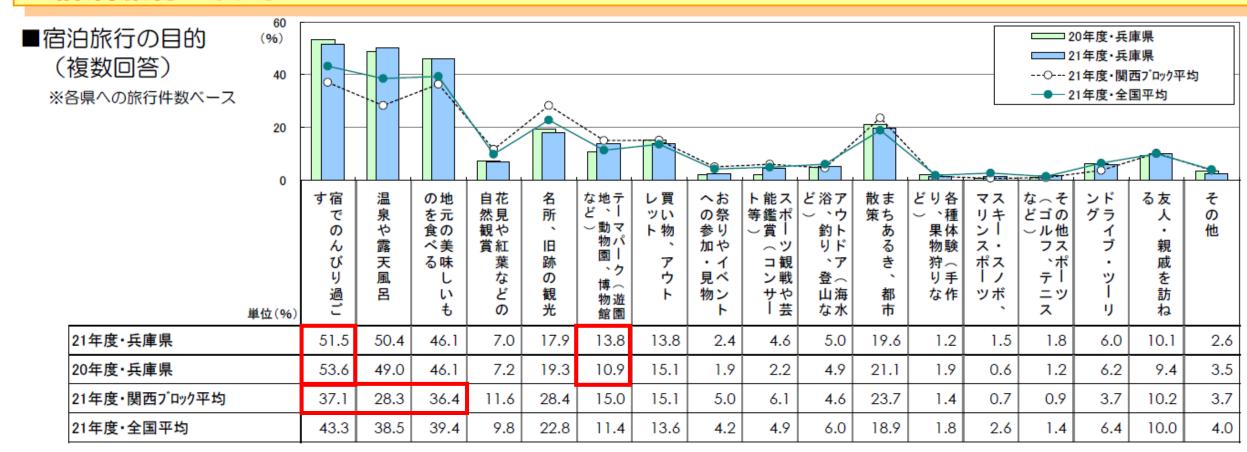
宿泊旅行の目的(複数回答/延べ宿泊旅行件数ベース)



【兵庫県】宿泊旅行の目的

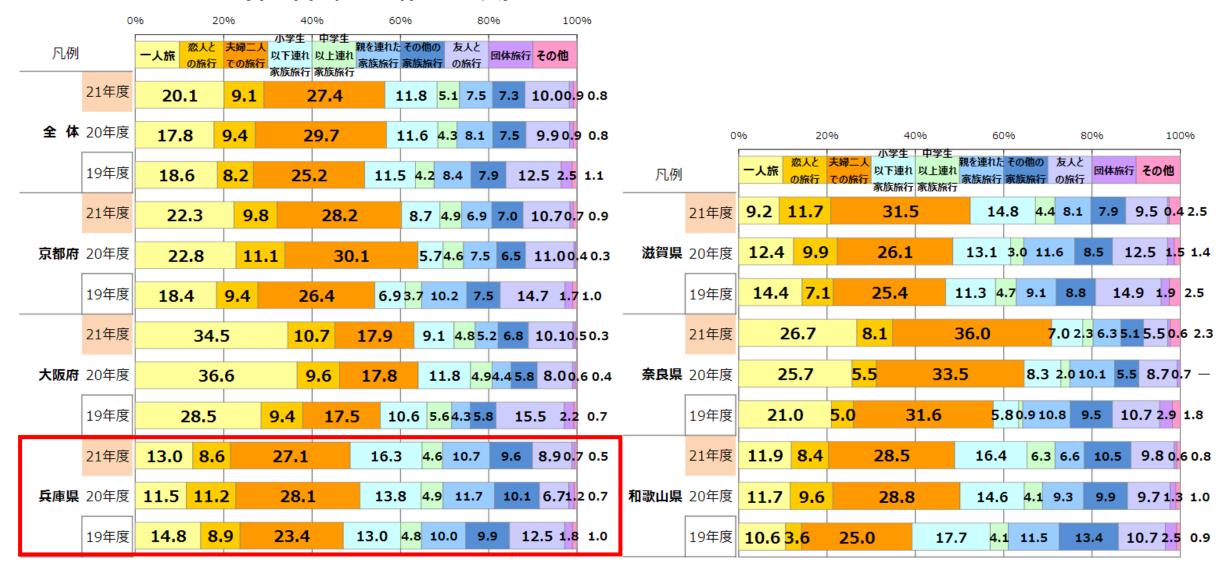
「宿でのんびり過ごす」「地元の美味しいものを食べる」「温泉や露天風呂」がトップ3。兵庫県はこの トップ3の項目が全国、関西ブロックと比較しても圧倒的に高い傾向となっている。

●宿泊旅行の目的



じゃらん宿泊旅行調査_宿泊旅行の同行形態 (関西データ)

宿泊旅行の同行形態(単一回答/旅行件数ベース)



宿泊旅行先の変化

- 延べ宿泊旅行者数は2年ぶりに東京都が1位に。いずれの地域も旅行者数は増加しているが、特に東京都、大 阪府、千葉県、福岡県など都市部を中心に順位が上がっている。
- 都道府県別の延べ宿泊旅行者数(推計値) ※上位10都道府県

全体								増減傾向				
2021年度 推計値		順位 変動	2020年	F度 推計値	2019 [£]	F度 推計値	2018年度 推計値	2017年度 推計値	21← 20	20← 19	19← 18	18← 17
全 国	8,231万人			7,256万人		13,575万人	14,777万人	14,556万人	+	-	-	+
1位 東京都	647万人	1	2位	430万人	1位	1,447万人	1,573万人	1,541万人	+	-	-	+
2位 北海道	608万人	\downarrow	1位	526万人	2位	1,091万人	1,134万人	1,066万人	+	-	-	+
3位 長野県	414万人	1	4位	351万人	5位	630万人	693万人	702万人	+	-	-	_
4位 静岡県	406万人	\downarrow	3位	373万人	4位	665万人	733万人	773万人	+	_	_	_
5位 大阪府	382万人	1	7位	282万人	3位	739万人	809万人	775万人	+	-	-	+
6位 神奈川県	373万人	\downarrow	5位	347万人	6位	584万人	705万人	710万人	+	-	-	_
7位 京都府	365万人	\downarrow	6位	301万人	7位	549万人	623万人	637万人	+	_	_	_
8位 千葉県	302万人	1	10位	249万人	9位	510万人	619万人	553万人	+	-	-	+
9位 福岡県	293万人	1	11位	208万人	8位	515万人	496万人	503万人	+	-	+	-
10位 兵庫県	288万人	\downarrow	8位	275万人	11位	457万人	485万人	472万人	+	-	-	+
上位10位・計の構成比	49.5%			46.9%		53.1%	53.6%	53.6%				
11位~20位・計の構成比	24.1%			24.9%		24.6%	24.0%	24.2%				
21位以下・計の構成比	32.8%			35.0%		29.8%	30.0%	30.0%				

県内旅行比率(近隣化の検証)

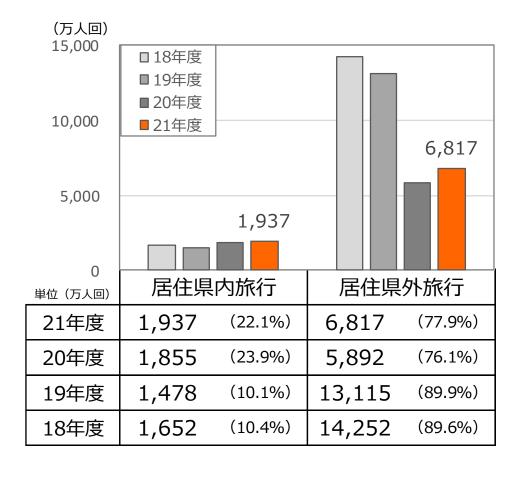
県内旅行の割合は、全体で22.1%。昨年よりは割合は下がったが、件数で見ると昨年と同程度(1937万人 回)を維持しており、変わらず需要があることを示している。

居住都道府県別 県内旅行の割合 上位10県

(%)

21年度		20年度	19年度
全 体	22.1	23.9	10.1
1位 北海道	65.0	76.7	55.2
2位 岩手県	57.3	59.5	16.9
3位 秋田県	52.4	61.0	6.1
4位 新潟県	47.7	48.1	16.3
5位 長崎県	45.2	33.0	12.4
6位 富山県	43.5	31.6	8.5
7位 高知県	42.3	24.5	7.4
8位 長野県	41.7	42.7	19.6
9位 青森県	39.9	42.4	10.2
10位 福島県	39.8	40.0	22.4

居住県内外別の延べ旅行者数の推移(推計値)

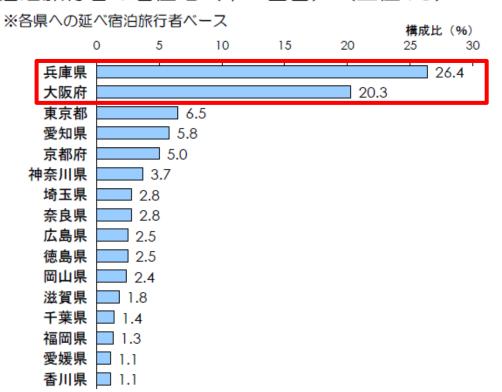


【兵庫県】県内旅行比率(近隣化の検証)

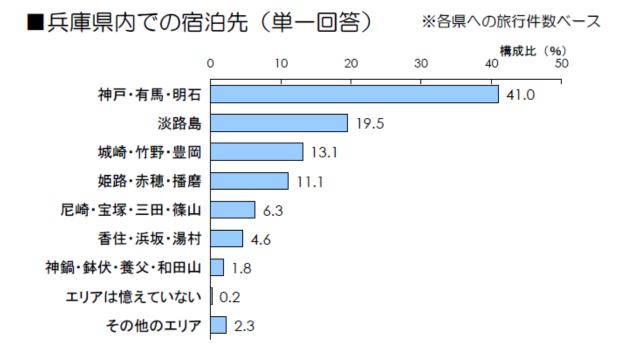
- 兵庫県内旅行の割合は、26.4%、隣接する大阪を含めると46.7%、京都を含めると51.7%となっており、 隣接する大阪・京都と合わせ全体の5割以上を占めている。※東京・神奈川・埼玉:13%

●宿泊旅行者の居住地(発地エリア)

■宿泊旅行者の居住地(単一回答)(上位15)



●県内での宿泊先(着地エリア)

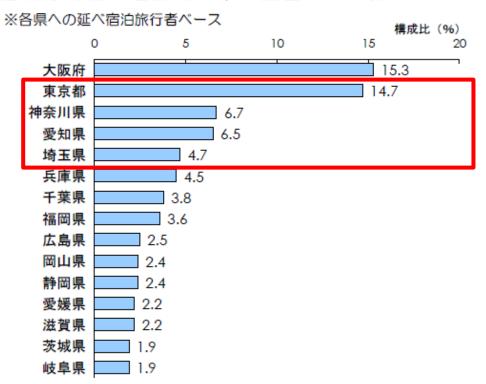


【大阪府】県内旅行比率(近隣化の検証)

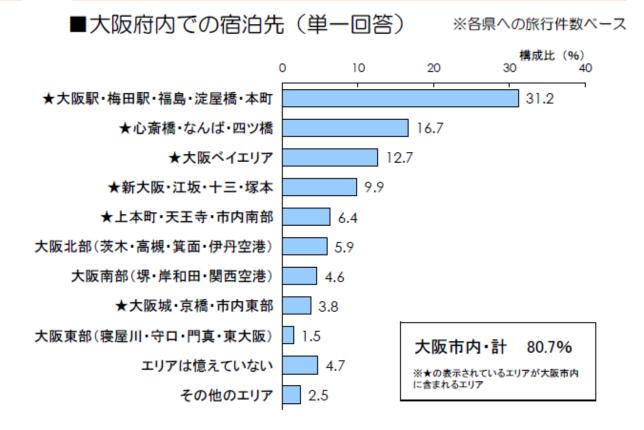
● 大阪府内旅行の割合は、全体で15.3%。一方、首都圏や東海圏の都市部からの訪問者数も非常に多く、兵庫 県の傾向とは大きく異なっていることがわかる。 ※東京・神奈川・埼玉:26.1%

●宿泊旅行者の居住地(発地エリア)

■宿泊旅行者の居住地(単一回答) (上位15)



●府内での宿泊先(着地エリア)



【京都府】県内旅行比率(近隣化の検証)

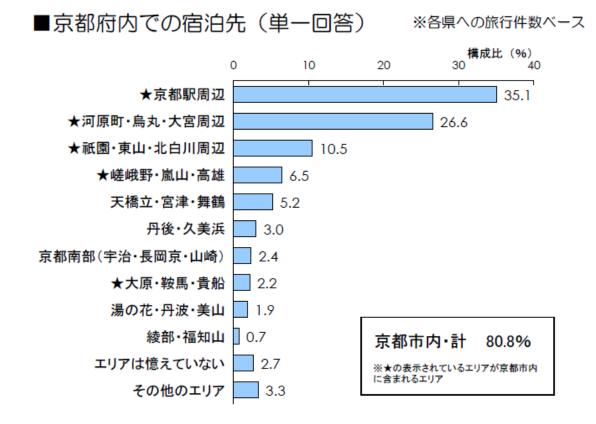
● 京都府内旅行の割合は、全体で5.7%。一方、首都圏や東海圏の都市部からの訪問者数も非常に多く、兵庫 **県の傾向とは大きく異なっていることがわかる。大阪府も京都府も旅行目的が他県とは異なる傾向であるこ** とが理由と考えられる。 ※東京・神奈川・埼玉:25.9%

宿泊旅行者の居住地(発地エリア)

■宿泊旅行者の居住地(単一回答) (上位15)

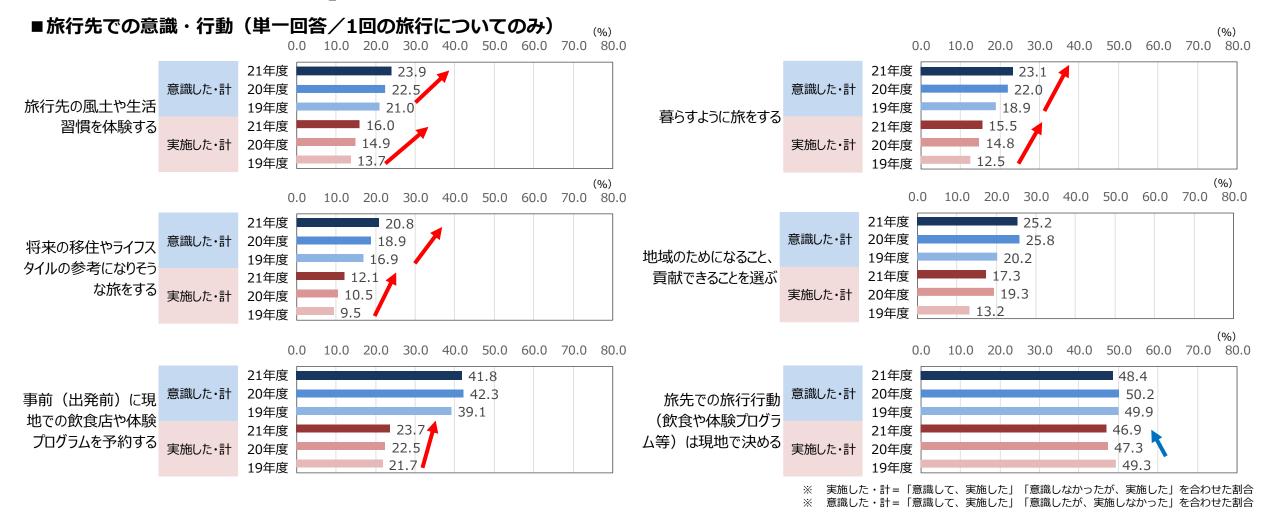


▶府内での宿泊先(着地エリア)



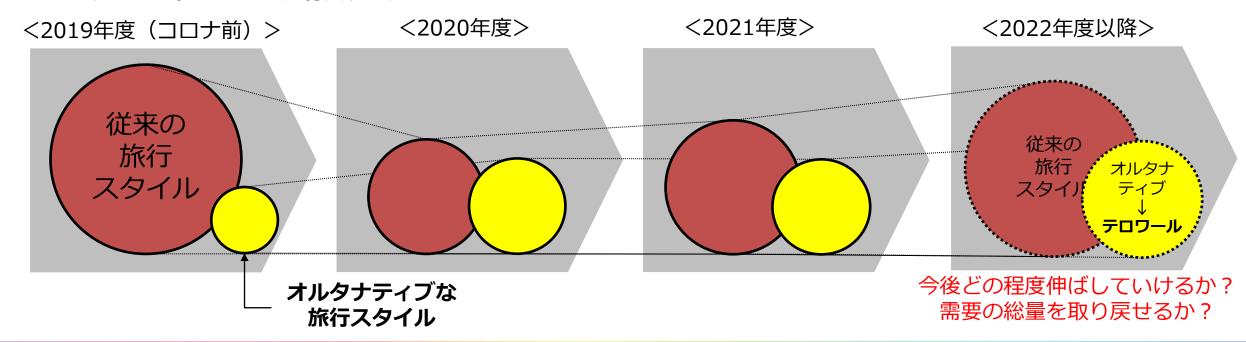
【全国】旅行において意識したこと(旅行先での意識・行動)

「旅行先の風土や生活習慣を体験する」「暮らすように旅をする」「将来の移住やライフスタイルの参考に なりそうな旅をする」など、地域に根差した文化や居心地の良さを求める項目が増加傾向。現地の体験につ いては事前に「予約する」実施率が微増傾向。



コロナ前後の旅行スタイルの変化とは?

- コロナ前に戻りそうな(回復する)需要として、①宿・食・温泉、テーマパークといった従来の人気の旅行 目的、②都市部の人気、③シティホテル・ビジネスホテル需要、④公共交通機関の利用、⑤泊数の長期化な どが挙げられる。これらの**従来の人気の旅行スタイルは、順調に回復傾向にある**と見てよさそうだ。
- 一方、コロナ前からの変化と思われる需要もある。例えば「旅行先の風土や生活習慣を体験する」「暮らす ように旅をする」など、**地域に根差した文化や居心地の良さを求めるニーズ、「将来の移住やライフスタイ ルの参考になりそうな旅をする**」など、**自然豊かな地方に対するニーズ**である。これらのいわゆる「オルタ ナティブ(主流ではない)」需要は、コロナをきっかけにより促進されたともいえる。**今後このような需要** をいかに伸ばしていけるかが、完全な需要回復に向けての切り札となるかもしれない。
- コロナ前後の需要増減と旅行スタイルの変化イメージ



世界、日本の旅に対するトレンド

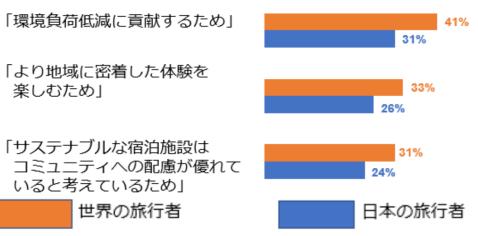
- ■Beforeコロナの我が国における観光は訪日外国人数の増加等、順調に拡大推移
- ■他方、急速な訪日外国人旅行者の増加によって一部の観光地においては、 オーバーツーリズムに代表される「観光公害」等の弊害も指摘されています。
- ■さらに、UNWTO(国連世界観光機関:責任ある、持続可能で、誰もが参加できる観光の推進を責務とする国連機関) によってサスティナブル・ツーリズムが推進されるなど、 観光業界においてもサステナビリティへの配慮が求められています。
- ■世界的な傾向において、旅行者における旅行先・旅行体験におけるサステナビリティへの関心は非常に高まっている。

「サステナブルな旅は自身にとって重要である」と回答した





過去1年間で「実際にサステナブルな宿泊施設に滞在した」 旅行者がサステナブルな旅を選んだ理由



(引用)Booking.com

2022年サスティナブル・トラブルに関する調査結果より抜粋

サステナブル・ツーリズムの基本定義(UNWTOのコンセプト定義より)

訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社 会、環境への影響を十分に考慮する観光

■主要な生態学的過程を維持し、自然 遺産や生物多様性の保全を図りつつ、 観光開発において鍵となる環境資源 を最適な形で活用する。

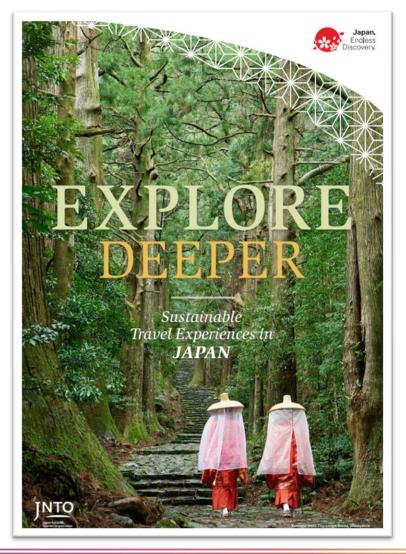
■訪問客を受け入れるコミュニ ティーが安定した雇用、収入獲 得の機会、社会サービスを享受 できるようにする等、全てのス テークホルダーに公平な形で社 会経済的な利益を分配し、貧困 緩和に貢献しつつ、実行可能か つ長期的な経済運用を実施する。

環境 (自然) (開発環境)

経済 (収益性)

社会 (文化) ■訪問客を受け入れるコミュニ ティーの社会文化面での真正性 を尊重し、コミュニティーの建 築文化遺産や生きた文化遺産、 さらには伝統的な価値観を守り、 異文化理解や異文化に対する寛 容性に資する。

「自然と自然に根ざした文化」をコンセプトに、サステナブル・トラベルの観光コンテンツ(50件)を紹介するデジタル・パンフレットを **※JNTO(日本政府観光局)**:外国人旅行者の誘致活動を行う政府機関 英語で制作。※2022年4月28日公開



ジャンル

- 1. 自然を楽しむアウトドア・アクティビティ
- 2. 豊かな**生物多様性**に触れる
- 3. エコ・フレンドリーな宿泊施設
- 4. 豊かな**自然風土に根差した食文化**を楽しむ
- 5. 古来からつづく温泉・湯治を楽しむ
- 6. 受け継がれる**日本の信仰**に触れる
- 7. 伝統的な地域・文化財に泊まる
- 8. 地域に根付く伝統芸能を鑑賞する
- 9. 受け継がれる**祭り**に触れる
- 10. **匠の技**に触れる

https://partners-pamph.jnto.go.jp/simg/pamph/1683.pdf

兵庫テロワール旅

"土地の個性"を意味するテロワール。

大地を潤す海や川の水、気候、土壌、地形、そこに暮らす人々など

その背景を紐解くと、ほかでは味わえない兵庫ならではの魅力に気付くはず。

あなたも五感で感じる「兵庫テロワール旅」へ出かけてみませんか。